

第255号（2021年10月号） / 2021年10月1日発行

やっぱり、ちょっと待って図書館移転!

ワークショップはさらに10月31日に延長

<署名>

「ちょっと待って図書館移転連絡会狛江」の署名は新型コロナの緊急事態宣言の延長に伴って街頭の署名・宣伝活動は見合わせています。現在3340筆です。新たなチラシを作って署名に取り組みます。

<かわら版>

緊急事態宣言の延長により、ワークショップ（以後WS）の開催が次々延期されている中で、第1回WSのまとめとして「市民ワークショップかわら版」第1号（8/31発行：狛江市、編集：TOT 共同事業体）が発行されました。その内容について、事実経過や、意見のまとめ（一部抜粋）が内容を正しく反映していないとWS参加者から異議が出されています。

・「話合っていた、話合った内容を発表」
=>市民センターWSでは、各自の意見を紙に書いて貼り出しただけで、話し合う時間はなかった。発表者の個人意見を発表しただけ。
=>図書館WSでも意見を出しただけで、話し合いにはなっていない。発表者の発言でないことが意見のまとめとして書かれている。

・紙に書かれた意見の中で都合の良いことだけピックアップしているのではないか。

・全録版もホームページに載っていますが、自分の意見が載っていないとの声もあり、図書館に全意見の掲載を要望したところ、確認後漏れがあれば追加するとの回答があったそうです。

<市民アンケート>

市民センター改修・新図書館整備のアンケートが行われました（8/15～9/15）。

回答した人からは

- ・質問項目が多くて大変だった。
 - ・選択肢が意図的なので該当するものがなく、その他の欄に書く設問が多かった。
 - ・自由記述欄に基本方針の決め方も改修案の内容もおかしい旨書いた。
 - ・これまでの市のアンケートは無作為抽出だったので意見を述べる場がなかった。今回は自発的に意見が述べられたが、どのように扱われるか。市民の意見をちゃんと聞いてくれるのか。
 - ・WSや委員会の参考とされるが、位置づけが曖昧。
 - ・集計も取捨選択されないか不安。
- などの声が出されています。

◎公民館では、利用者懇談会が緊急事態宣言の発令などで開催できないため、市民センター改

修に係る利用者団体向けアンケートが代表者宛に発送されています。(締め切り 10月20日)

◎市民の意見の収集については、

- ・市民提案書作成時の利用者アンケート

<https://komae-shimin.tokyo/download/data.pdf>

・昨年3月の市民センター改修に特化した市民アンケート

<https://www.city.komae.tokyo.jp/index.cfm/46,107030,c,html/107030/20200608-125656.pdf>

などがすでにあり、市民から全面改築を含め多くの意見が寄せられています。市は基本方針を作る際にはこれらの意見を無視したわけです。

<これからの進め方>

市長は市議会一般質問の答弁で、WSやアンケートに寄せられた市民の意見は参考にすだけ、基本方針の枠組みは変えないと言っていますが、これが狛江市の市民の参加と協働の条例に沿ったやり方と言えるのでしょうか？

コロナ禍の中で議論も進まないまま、当初の予定通り基本構想を作ろうというのは納得できません。市の基本方針は作られ方も、内容も市民の意見を反映しているとは言えません。当面必要な市民センターの修繕を行って、市民の意見と知恵を集めて、よりよい市民センターを作る方が良いのではないのでしょうか。「やっぱり、ちょっと待って図書館移転」と訴えて、引き続き署名に取り組むことを考えています。

(周東三和子)

市民に寄り添う姿勢を望む 一市議会を傍聴して

8月26日に始まった市議会第3回定例会で平井里美議員、日本共産党4議員の一般質問をインターネット中継で傍聴したので、感想を投稿します(記録は手元メモなので、不正確な点はお許し下さい)。

質問項目「市民の暮らしを支える公務労働」(平井議員)の「正規職員と会計年度任用職員の働き方」の「会計年度…職員」は地方公務員法「改正」により、2020年4月に発足した新しい制度でした。非常勤職員に一時金を支給するなどの「改善」点がある一方、会計年度に限った任用が法定化されることで、低賃金・低処遇のまま無権利も増大する可能性があることを知りました。総務部長の答弁では狛江市役所にも多くの「会計年度…職員」がいるようです。処遇が低い職員が多ければ市民に対する行政サービスの低下に直結しますし、同じ仕事するなら、こうした身分差別制度を公的機関が率先して実施することになり、問題ではないでしょうか。

政府は8月3日、コロナ重症患者と重症化リスクの高い患者以外は「原則自宅療養」としたため、

受療できず自宅で死亡する方が増えています。質問の「狛江市の陽性者実態と入院基準は」(宮坂議員)には、福祉保健部長が国の方針をそのまま答弁し、市独自の対応・支援策はありません。

困窮している市民を支援する自立支援金や地域経済持続化給付金(いずれも国の制度)の申請・給付状況が質されました(西村議員)が、実績数は少ない印象で広報やホームページの掲載だけでは市民に届かないと思いました。対象とする市民への積極的な宣伝活動をなぜしないのでしょうか？

「狛江市は就学援助の受給率が低く(都平均の半分前後)、狛江市の認定基準が厳しいのではないか」(鈴木議員)には「福祉も含めて包括的に考えるべき」、「一定の基準をもって公平に判断する」(教育部長)との答弁でした。質問と噛み合っておらず、受給率が低いことに対して、もっと具体的に説明する責任があるのではないのでしょうか。

昨年秋からの「市民センター改修等基本方針」の見直しを求める市民の声に応じて「少なくとも図書館の移転をはずしては」(前同)との進言に、市

長は「議会で認められたもの」と拒否し、「あくまでも『基本方針』の枠内で」(教育部長)、WEBアンケートは検討材料のひとつ(企画財政部長)と口を揃え、市民の声を聞く姿勢に欠けています。

狭い駄倉新図書館構想でも市民の滞在型図

書館、蔵書増の要望に応えられるというなら、もっと積極的に説明すべきではないでしょうか。

自治体も国や都の施策に制約されることは理解できますが、市民が繰り返し声をあげるの必要性を感じました。(東野川・前土肥保)

総選挙に向けた「ちょこみな」の取り組み

現在マスディアは「自民党の総裁選」によってジャックされています。自民党员以外の国民には投票権がないにもかかわらず国民全体にとっての重大事であるかのように。立候補者が4人も出て、あたかも「いろいろな考えの人が自民党にはいる」かのような幻想をばら撒いています。しかし、モリカケ問題、桜問題には触れず、河合問題にも触れず、何が「自民党改革」と突っ込みたくなるようなドングリ候補ばかりです。ですから私たちは来るべき衆院総選挙においてどんな「新しい顔」が出てきても「自民党」の本質は変わっていないと心得て、安倍・菅後継の自民党を少数に落とし込み、《新しい政治》を作り出しましょう！

私たち「豊かな狛江をつくる市民の会」も参加している「戦争なんてイヤだ！ 狛江市民実行委員会」は調布、三鷹、稲城の市民連合と共同して、5年前から東京22区における「野党共闘」を追求してきました(本誌8月号参照)。この度9月8日中央において市民連合と立憲民主党、日本共産党、社会民主党、れいわ新選組による政策合意が実現したことを受けて、9月15日「小選挙区での野党統一候補勝利のため野党間での話し合いを求める要望書」を4野党に提出し、併せて9月20日には調布にある山花郁夫事務所を訪問し、22区における野党共闘の実現に向けて努力してほしい旨も要望をしました。

以下、その申し入れの要旨です。

自民党を少数派に追い込み、政権交代を実現するためには、市民連合と野党の政策合意を土台にしながら、「命を守るために政治の転換を」求めるすべての市民と政党が心を一つにして選挙をたたかい勝利することが必要ではないでしょうか。その実現のために、貴党に以下の点について要望いたします。

1. 東京小選挙区22区において野党候補一本化のための政党間の話し合いを早急に行ってください。
2. 政党間での選挙協力体制をつくり、市民と野党が一緒に力を合わせて選挙運動ができるようにしてください。

この懇談で山花議員からは以下の話がありました。

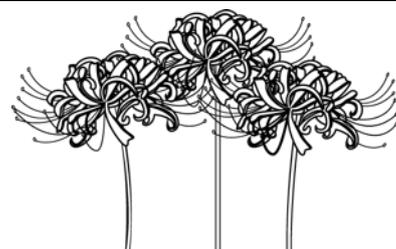
「東京22区の選挙区だけでなく長妻都連会長・手塚都連幹事長などの選挙区にも候補者をぶつけてきているれいわ新選組が「共通政策」合意のうえでどう動くのかはまだ分からないが、都連の選対、党本部、幹事長などに調整を急いでもらうようにしたい。菅退陣、総裁選のご祝儀相場が生まれ、大変な選挙になりそうなので、山花が櫛淵さんとダイレクトに折衝するのは難しいが、上部での調整を急ぐように努力したい。」したがって、私たちとしては自民党候補の当選を阻み、山花議員の当選に向けて頑張らなければならないと思います。

(岩戸南・小俣三郎)

10月の市民運動などの予定

※今月、市民運動団体などが予定している各種会議やイベントなど、日程を掲載するコーナーです。編集部が把握する情報には漏れがあると思いますので、ぜひあなたの情報をお寄せください。
 ※本紙に折り込んでほしいピラなどがありましたら、320部用意してください。会報製本・仕分け作業日前日が締め切りとなります。折り込み希望の方は、可能な限り、会報の製本・仕分け作業をお手伝いください。

日 時	会場など	内 容	問い合わせ先など
3日(日) 4時半～5時半	狛江駅前北口広場	Silent Standing	「平和憲法を広める狛江連絡会」(緊急事態宣言下は中止)
9日(土) 15時～16時	狛江駅前	「九の日行動」 駅前署名・宣伝行動	改憲発議に反対するスタンディング
11日(月) 16時～17時	狛江駅前	フラワーデモ 性暴力に抗議するスタンディング	新婦人狛江支部の会員の呼びかけで行っています。お花を持って参加を!
12日(火) 14時～15時	オンライン会議	『豊かな狛江』11月号編集会議	アイデアをお寄せください。
15日(金) 14時～15時	東京土建狛江支部会館会議室	戦争なんてイヤだ! 狛江市民実行委員会相談会	各加盟団体の皆さん、ご出席ください。
21日(木) 14時～15時	東京土建狛江支部会館会議室	こまえ社保協事務局・役員会議	各加盟団体の皆さんは、ご出席ください。
21日(木) 13時30分～15時30分	中央公民館・第2会議室	《平和憲法を広める狛江連絡会》《こまえ九条の会》合同世話人会	新しい方の参加大歓迎です。
25日(月) 14時～16時頃	みんなの広場ホール	拡大世話人会	世話人以外の方の参加歓迎です。
26日(火) 9時30分～11時頃	みんなの広場ホール	豊かな会会報『豊かな狛江』10月号の製本・仕分け作業	ぜひ! お手伝いにおいでください。
27日(水) 17時30分～18時30分	狛江駅前	消費税を5%に減税求める駅前署名・宣伝行動	消費税をなくす狛江の会



絹山さんの一周忌に寄せて

小俣 三郎

1年前（2020年）の9月、私たちは大変ショックで、悲しい情報に遭遇し、茫然自失となりました。「絹山さんが亡くなった！」

「なぜ？」 「どうして？」という驚きの声と同時に、「これから私たちはどうすればいいの？」という戸惑いの声もあがりました。

直前まで「狛江派遣村」の会合に出ていたという、まさに「革新派・リベラル派」の《市民運動の権化》ともいえる絹山さん。絹山さんの活動・功績の様子は「豊かな狛江をつくる市民の会通信」『豊かな狛江』243号（2020年10月号）に多くの方々が寄せています。

それから1年、私たちは絹山さんが切り拓いた運動を引き継いできました。そんな中で時々「絹山さんならこんな時どうするだろう？」「絹山さんはこんな風に言っていたな」などと思ってきました。今でも絹山さんは私たちと一緒にいます。

「みんなの広場」は私たちの活動を支える場所となっています。「豊かな会世話人会」をはじめ多くの活動がここを拠点に繰り広げら

れています。ここで会議をしていると、壁いっぱい並んだ「資料」が目に入ってきます。まさに「市民運動の資料庫」です。

絹山さんの市民運動における最も大きな貢献は《幅広い結集》をつくり出したことでしょう。自身は「社会党・社民党支持者だ」と公言しつつも、目的が一致する場合には他党の支持者・無党派層の人たちとも手を携えてきました。

その集大成ともいえるものが「戦争なんてイヤだ！狛江市民実行委員会」ではないでしょうか。狛江市内の17団体・136人が結集し2015年6月に結成され、現在に続いています。

これは「市民と野党の共闘」「野党は共闘！」を求める市民連合（安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合）（2015年12月）の動きを先取りするような取り組みで、現在の政治運動の潮流となっています。

この潮流を大切にしながら、私たちも、絹山さんに恥じないよう一生懸命に取り組んでいきたいと思います。



こまえ平和フェスタ2021 9/12(日) オンラインで開催!

オンライン配信を視聴会場で観て

「狛江の放射能を測る会」西尾 真人

こまえ平和フェスタ2021がコロナ禍のなか、オンライン開催されました。昨年は中止でしたが、その時にニュースを発行し、過去の歴史をまとめ、ユーチューブに2005年以來の平和フェスタ合唱団の活躍をアップし、ホームページには過去の主だった講演、戦争体験者のお話などを掲載しました。そうした努力が今年の展示を含めた開催内容に繋がっているようです。オンライン開催は実行委員長の大熊啓さん(シンガーソングライター・うたごえ指導者)の1年以上の工夫の積み重ねが、「プロ並みの出来栄え」と絶賛される映像となって現れました。

こまえ平和フェスタ実行委員会では視聴会場設置を感染者数拡大のために中止しました。そこで、私たちの会は友人・知人の範囲なら感染対策もしやすいと考え、用意されていた会場を引き継ぎ、結果としてパソコン・スマホで観れない方を中心に27名の方に視聴していただきました。その後、感染者が出ているとは聞いておらず、ホッとしています。

配信中のアクセス数は450、常時約100か所(この視聴会場はその一つ)で視聴されたとのこと。沖縄でも数人の方が集まり、視聴したとのこと。

内容はリモートによる100人以上の方たちの「水と緑のまち」の合唱で始まり、大熊実行委

員長のオンライン開催に至った経過と平和への思いが語られ、松原市長、谷田部議長ともにオンライン開催を喜んでいました。狛江平和都市宣言朗読劇は核兵器禁止条約を中心に語られ、岩瀬瑞穂さんは5歳の時に北朝鮮から日本に逃げ帰ってきた時の体験を、学生でボクシング好きの荒木恵美子さんは五輪開催に感じた違和感を分析したお話をしました。私の友人から共感の感想が寄せられました。アニメ映画「トビウオのぼうやはびょうきです」は、空中を飛べるようになった元気な「ぼうや」が水爆実験による放射能で病気になってしまった悲しいお話でした。休憩時間中には2005年以來の平和フェスタの映像が流され、大感激された方もいました。そして、後半は川崎哲さんの「核兵器はなくせる?—私たちにできること」の講演。「核兵器はなくせる。いろいろなことがあるけれど、私たちが動けば必ず廃絶できる」と力強く訴えているのが印象的でした。最後に展示の説明まであり、そして再び、圧巻の「水と緑のまち」でお別れしました。

是非、ホームページ

(<http://komae-heiwa-fes.clean.to/>)を開き、アーカイブの動画や文章を見てください。



コロナ感染症パンデミック長期化の中の世界経済の動揺

—コロナ感染症・バブル崩壊後の“習リスク”—

永山 利和（元日大商学部教授）

コロナ感染症パンデミックは、ワクチン接種の拡大、各種治療薬の開発・普及で鎮静するとみられる。それを受け、経済もほどなく正常に復するかに思える。ロックダウン、外出制限、事業活動の停止・縮小、集会等の“人流抑制”など、感染抑制政策ではあって欲しくない。ワクチン接種、治療薬投与等で生活・経済が平常に戻れたら嬉しい。

感染症の影響を受けた経済もアメリカ、ドイツを除くユーロ圏、中国経済が持ち直している。ただ先行きはリーマン・ショック＝金融システム・パニックと違い、感染が鎮静化すれば、潜在していた需要が一気に回復するシナリオが妥当し、ワクチンと治療薬で世界経済回復のシナリオが演じられるだろうか。

注意深く見ると経済にも変異現象がある。トランプ前政権以来の米中貿易摩擦を基底に、変異は、①コロナ禍で混乱した国際サプライチェーンの分断と再編（半導体不足等）、②ファーウェイ事件に見られる中国企業による特異な情報の収集・運用へ企業活動の規制強化、③EUのGDPR（一般的情報保護規則）や税制再編にグローバル経済を主導したGAFAM等の世界企業ビジネス・モデルへの規制や税制再構築、④ゼロ金利政策で拡大した資産と金融経済が生んだ格差と貧困を伴った金融政策が“出口”戦略への接近（“低金利時代の終焉”のはじまり）など、である。総じて世界経済は脱コロナによる好循環だけではなく、新リスクも積層している。世界はいわゆる貿易戦争にコロナ感染症の経済危機が重なり、冷戦構造以来の体制的摩擦が強まる。なかでも中国経済へのボディー・ブロー効果の気配に注目だ。

信ぴょう性が薄い中国経済指標でも、マクロ

指標は実態を反映しなくても、傾向値は低い信憑性を削いで動向を表わす。中国の2020年第I四半期（1～3月）の実質GDPは2019年第IV四半期に比し、▲8.7%と大きく落込んだ。武漢市のロックダウン等を含む、感染症対策の結果である。が、2021年第I四半期は何と18.3%増で、過去の落込みを僅か1年で一気に取り戻した。しかし、2021年第II四半期は7.9%まで10.4ポイントと大きく落ち込んだ。世界経済も浮沈したから、中国経済が落ちても気に留めなくていいかもしれない。しかし不動産事業会社大手の恒大集団の取り付け騒ぎは、中国経済の深部の危機を覗かせる。

中国経済は日本の高度成長期以上に国家の強力なバックアップがある。国家支援で商工業、運輸、金融・不動産業などに巨大私企業を成長させ、地域経済では都市・不動産開発を進め、世界経済の不況克服にも貢献した。「一带一路」世界インフラ整備ではアジア、中近東・アフリカ、中南米、中・東ヨーロッパに橋頭堡を築き、覇権国家を築きつつある。

しかし中国経済を蝕む要素が他にある。それが習近平の思想統制だ。“習文革”でも解消しない深い溝がある。共産党幹部や行政官僚と経済界との癒着・不正蓄財などの歪みを摘発することは必要だ。が、チベット、内モンゴル、新疆ウイグル等自治区支配、香港の軍事併合と台湾への圧力。一口に“漢族化”でのリスクが高まる。“漢族化”は国連規約、国際人権規約などの第二次大戦後の世界標準に背き、世界に“習リスク”を広げる。

“習リスク”はかつて中国進出の日本人の思いに重なる。日本がポーツマス条約で得た南満州鉄道警備という小さな目標を掲げた関東軍

が、1931年9月18日、柳条湖で張作霖を爆死させ、板垣征四郎、石原莞爾らにより満州軍事領有論、さらに傀儡“満州国”建国に至った。今月は満州事変90周年に当たる。かつて“王道楽土”思想のお膝元、日本国民は貧困と格差にあえぎ、満州国を理想郷にすると一人合点し、満蒙開拓団の失敗等に至り、太平洋戦争敗戦で朝鮮、満州、中国の人々を樺太、シベリア、ウズベキスタン等に放置した。この方々の傷が癒えていない。

満州事変・日中戦争・太平洋戦争を聖戦とする政治家が日本で跋扈する時代になりつつあ

る。ドイツはナチス協力者を犯罪者として今も裁く。ドイツは対立するロシアとは天然ガスパイプライン「ノルドストリーム2」を整備し、対中国で新疆ウイグル自治区に自動車工場を稼働させた。日本の支配政治思想は、“習リスク”に近いのではないだろうか。中国のTPP加入申請は中国国内経済矛盾の捌け口を海外進出で修正しようとする影がある。

アメリカ抜きのTPP体制において中国の加盟申請にいかに対処するか。敗戦を自分で裁くドイツと違い、占領軍の裁きを潔しとしない政治家を放置している日本国民が試される。

狛江の自然



レンゲショウマ

日本固有の山野草です。夏に入る頃、細く長い花茎を伸ばし、やがて上部に約3～4cmの下向きに咲く白花を7～8個つけます。花の中央部はほんのりと紫がかっており、とても上品です。御岳山（みたけさん）の大きな群落が人気ですが、狛江近くのいくつかの野草園や公園でも見ることができます。（写真は神代植物園にて）

高橋 廉（岩戸在住）